

1 財団名の変更について

設立21年目を迎える弊財団は、今年1月1日付で財団名を損保ジャパン日本興亜環境財団からSOMPO環境財団に変更いたしました。地球温暖化の影響を受ける損害保険会社の企業財団として環境問題に取り組んでまいりましたが、今日、気候変動はもとより生物多様性の毀損、海洋プラスチック問題などあらゆる環境問題が地球的規模で我々の生活を脅かす目の前の危機となってきました。今後は、「安心・安全・健康のテーマパーク」を掲げるSOMPOグループの企業財団として、よりグローバルな視野で環境教育の振興等を通じた地球環境の保全に取り組んでまいりたいと思います。引き続き、ご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

専務理事 西脇 芳和



2 CSOラーニング生の活動をレポートします

8か月間、大学生・大学院生を全国4地区（関東、関西、愛知、宮城）の環境CSO（NPO、NGO）にインターン派遣するCSOラーニング制度。「木を植える人を育てる」をモットーにする環境財団のメイン事業の一つです。2019年度参加した学生の活動の様子をレポートします。

CSOでのインターン活動

学生は派遣されたCSOで8か月のインターン活動に従事します。職員として森林保全、廃棄物問題、気候変動対策など様々な課題解決に取り組むCSOの業務を経験します。事務だけでなくイベントや講演、現場での保全活動も経験します。



インターン活動の様子

回の全国合宿では全インターン学生が東京に集まり、環境問題や自分の将来のことを語り合うなど、学校の枠を超えた繋がりを構築します。

インドネシアのインターン学生とのTV会議も実施しました。

自主プロジェクト

地区別のグループ毎にテーマを選び、課題研究やワークショップなどを行う「自主プロジェクト」を実施しています。2019年度も5つのグループで、「エシカル消費」、「環境問題の啓発」、などに取り組みました。

関東のグループでは、プラスチック廃棄物問題に取り組み、廃棄物処理施設の見学、海浜での海洋プラスチック調査等を実施。その結果をまとめて、新宿区・NPO主催の環境イベントで発表しました。小学生や父兄、教諭に対する展示・説明や、子供を対象とした廃棄物を活用したプラリウム作りのワークショップも開催しました。



イベントの様子

定例会・合宿

学生は毎月一度、地区毎に集まり、派遣先CSOでの経験を共有したり、CSOの講話を聴くなど勉強会を行ないます。また期間中2



定例会（愛知）



全国合宿

3 2019年度環境保全プロジェクト助成の助成先が決定しました

「環境保全プロジェクト助成」は環境保全に取り組むNPO等の活動がより充実したものとなるよう、一件あたり20万円を上限に助成する制度です。17回目となる今年は下記10団体への助成が決定しました。

【2019年度 環境保全プロジェクト助成先】

No.	団体名	所在地	プロジェクト名
1	笹目川の環境を守る会	埼玉県	笹目川の水辺環境保全事業
2	ゲンジ虫とカジカ蛙愛護会	山形県	虫の文化を育むプロジェクト
3	愛知守山自然の会	愛知県	マメナシなどの絶滅危惧種の保全・保護・調査
4	NPO法人 Peace&Nature	兵庫県	Nature School Project 2019
5	チーム2℃おおいた協議会	大分県	アースデイおおいた2020
6	たろやま会	千葉県	自然は素晴らしい、みんなの里山～たろやまの郷～に行こう
7	NPO法人 SoELa	神奈川県	カードゲーム「マイアース」を利用した子供向け地球環境啓発活動の実施
8	海辺工房ひとで	静岡県	発見しよう、海の生きものの素敵！
9	NPO法人 金田台の生態系を守る会	茨城県	つくば駅からすぐそこ、東の湧水群を知っていますか？
10	上関の自然を守る会	山口県	上関の自然を未来へ

①第1期生の修了式を開催

環境財団では昨年2月から、インドネシアの大学生を現地の環境NGOに派遣する「NGOラーニング・インターンシッププログラム」を実施しています。10月31日、ジャカルタにおいて、8か月間のプログラムを終えた第1期生の修了式を開催しました。

学生たちは期間中、最長75日間にわたり、野生動物保護や廃棄物問題、環境教育などの課題に取り組むNGOでインターン実務を経験しました。そのほか、学生同士の相互啓発・情報交換のための定

例勉強会や環境保全の現場を視察するワークキャンプ、9月には日本のCSOラーニング学生とTV電話で意見交換も行うなど、切磋琢磨してきました。

修了式には、ドロップアウトした1名を除く修了生19名、環境NGOの役職員、現地メディアなど約50名が参加。財団の西脇専務理事から、一人ひとりに修了証を授与しました。

西脇専務理事のメッセージ

「皆さんがこの8か月間にインターン活動や学生同士の交流を通じて経験したことは、将来の人生で必ず役立つ。今後の皆さんの行動力とネットワークに期待している」



挨拶する西脇専務理事



一人ひとりに修了証を授与



修了証を持って記念撮影

参加した学生の声

「同世代の若者が地球や自然環境を守ることに関心を持ち、チャレンジしていることに勇気づけられた」
「本プログラムを経験し、いつの日か、日本で環境問題を学ぶ機会を得たいと思った」

②新たに第2期生が活動をスタート

2020年2月、新たに第2期生がNGOラーニングをスタートしました。大学生20名の募集枠に対して、200名を超える応募が殺到する

など、大変な人気となりました。書類選考、面接を経て選抜された20名は、2月4日のキックオフに参加し、PT Sompo Insurance Indonesia、SOMPO環境財団、参加NGOを前に、同期の仲間と連携して、各NGOでのインターン活動に積極的に参加することを誓いました。



キックオフの様子

<インドネシアNGOラーニング制度>

- ・募集対象：インドネシアの大学生・大学院生 20名
- ・派遣先NGO：インドネシア・ジャカルタ近郊に所在のNGO 9団体に派遣
- ・期間：2020年2月から9月まで8か月間
- ・活動：期間中NGOでインターン活動に参加するほか、学生の情報交換のための定例勉強会やワークショップに参加していく

北九州市で市民のための環境公開講座を開催しました

12月21日(土)北九州市において「市民のための環境公開講座」を開催しました。本講座は毎年9回の通常講座を新宿本社ビルで開催していますが、今回は北九州市と損害保険ジャパン日本興亜株式会社の環境・SDGs連携協定の一環として、出張講座を北九州市で実施したものです。

当日は、新渡戸文化小中学校・高等学校教諭で教育デザイナーの山藤旅間氏から「SDGsを『知る』から『行動する』への教育デザイン」と題して、ご講演をいただきました。山藤先生は、「社会と地域・学校を繋ぐプロジェクトを生徒とともに実施している。生徒にやり方を指導するのではなく、アクションを促せば生徒は自ら考えどんどん変わっていく」と話し、アカデミックの中に閉じこもりがちな日本の学校教育の問題点と、社会と接点をもつプロジェクトに参画する中で若者がどのように変化していくかを事例とともに語っていただきました。

